蜂蜜

杉浦 澪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蜂蜜

【Ｎコード】

Ｎ０８７３Ａ

【作者名】

杉浦　澪

【あらすじ】

偶然は必然。愛する人から愛されるために、私は私の全てを懸けて恋をした。秋人と出逢った私の、短く儚い夢のような恋。ただ好きなだけでは一緒にいられないんだと知った夏の夜。それでも私は甘く熱い恋を追い求めてしまう。そう…まるで琥珀色の蜂蜜のように甘い恋を。

プロローグ（前書き）

この物語はとてつもなく長くなる予定です。それでも頑張りますので、どうかお付き合い宜しくお願い致します。

プロローグ

蜂蜜のような恋がしてみたかった。

瓠珀色の、あのやけるように甘い蜜のような恋。

ただ、ただあなたと、熱く、甘く溶けていたかっただけなのに。

どうして私だけがこんなにも熱く寒いのだろう。

出逢ったのは単なる偶然だ。

だけど私は、あなたとの出逢いは神様がくれた運命だって思ってる。

そのときの私は、とても愛していた人との絶対の別れを前にして自分を見失っていた。とても愛していたその人は恋人だったわけじゃない。

ただ私だけが愛していた。

その証拠に彼にはちゃんと恋人がいたし、そんな恋人の存在なんか私だって百も承知だった。彼は私を

「友達」

と呼び、私は彼の

「浮気相手」

だと自覚していた。

私達はキスだってしていたし、会えば欠かさずに抱き合った。

だけど所詮彼は私を愛してなんかいなかったから、時間が経てばやっぱり飽きてしまう。

何時かそんな日が来ることは判っていても、間近に、確実に、その

瞬間を見付けてしまうとどうしても怖くなる。
そんなどうしようもない暗闇を紛らそうと、その頃私は闇雲にもがいていたんだ。あなたに出逢ったのはそんな時だった。

lstory 1l

季節は夏。八月の暑い夜。
私は友達の由宇と一緒に花火大会に来ていた。
この花火大会は由宇の地元で、花火の規模もなかなかのものだという。
夏が来ると浴衣が着たいと騒ぎ出す私を大人しくしようと、由宇が誘ってくれたのだった。
花火大会の夜。
今年最初の浴衣を着て、会場となる公園へ向かった。
途中由宇から遅れるとメールがきて、由宇が来るまでの小一時間、独りで暇を持て余すこととなった。
決して狭くはない公園もこの日だけは何処も狭かった。
隙間なんかないんじゃないかと思えるような公園内を無理矢理歩く。
花火大会はとうに始まっているから、頭上では休みなく割れるような爆発音が響き、濃紺の空には色とりどりの光が咲いていた。
擦れ違う人は友達同士だったり、家族だったり。
でもやっぱり一番多いのは恋人同士だ。
愛し合う二人が逸れないよう、しっかりと互いの手を握っている。
どの人にもちゃんと一緒に居る相手がいる。
独りぼっちなのは私だけだ。
皆が幸せそうで楽しそうなこの空間は、私をひたすらに孤独にさせた。
私がこんなに寂しいとき、一体彼は何をしているのだろう。ふと、あの彼のことが気になった。
いや、何時だって気になってはいたけれど、このときは無性に彼と繋がりが欲しくなったのだ。
もう、一ヶ月近く電話もメールもしていないのに。
もう、私達は終っているかもしれないのに。

頭では連絡するべきじゃないって解っていた。
だけどこの孤独な空間に耐えられなくって。
少しでも彼に救って欲しくて。長い沈黙を破り、彼にメールを送った。
「今日は花火大会に来ています。今、何をしていた?」

嫌な感じの緊張が体を包む。
「今は友達と飲んでる。」

昔に比べて確実にそっけなくなっているメール。
それでも彼が返信をしてくれただけで嬉しかった。私の孤独が少し薄れる。
「そうなんだ。じゃあ邪魔しちゃったかな?楽しんできてね。飲みすぎには注意!」

大きな木の下でこっそりと愛する彼にメールを送る。
少しだけ恋人気分だ。私の恋人はやっぱり彼しか居ない。
そうして彼からの返信を待った。五分…十分…
彼からのメールは届かなかった。
そうだった。
私達はもう結末に辿り着いてしまったんだった。
私は恋人なをかじゃないし、もう彼を好きでいてはいけないんだ。
思い出したらさっきよりも暗い孤独感に襲われた。
そうだった。私は独りだったんだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0873a/

蜂蜜

2010年10月9日23時52分発行